

岐阜県県政モニター 令和7年度 第1回アンケート結果



岐阜県広報課管理広聴係



第1回県政モニターアンケート調査結果

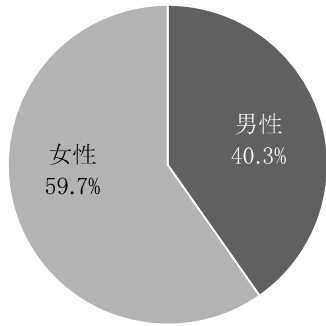
1 調査対象等

調査対象: 県政モニター926人(郵送モニター:115人 インターネットモニター:811人)
調査方法: 郵送及びインターネット
調査期間: 令和7年6月20日～7月14日
回収結果: 849人(回収率91.7%)
構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。
そのため、合計が100%にならない場合があります。

2 回答者属性

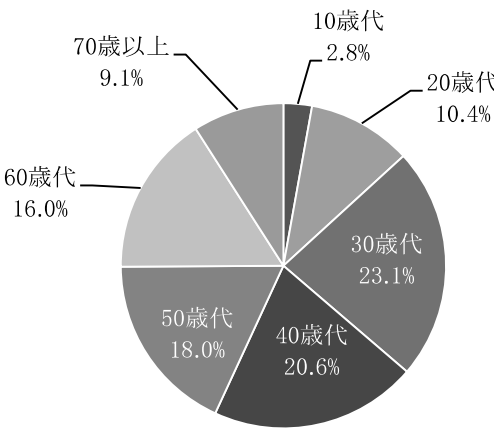
(1)性別

	人数	割合
男性	342	40.3%
女性	507	59.7%
計	849	100.0%



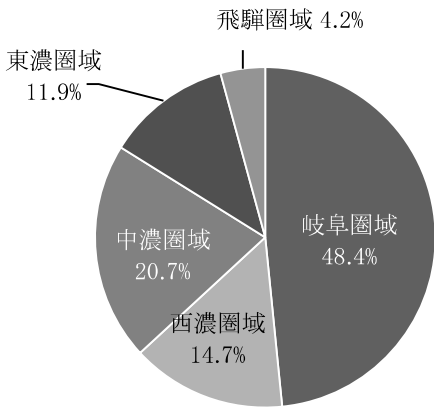
(2)年代別

	人数	割合
10歳代	24	2.8%
20歳代	88	10.4%
30歳代	196	23.1%
40歳代	175	20.6%
50歳代	153	18.0%
60歳代	136	16.0%
70歳以上	77	9.1%
計	849	100.0%



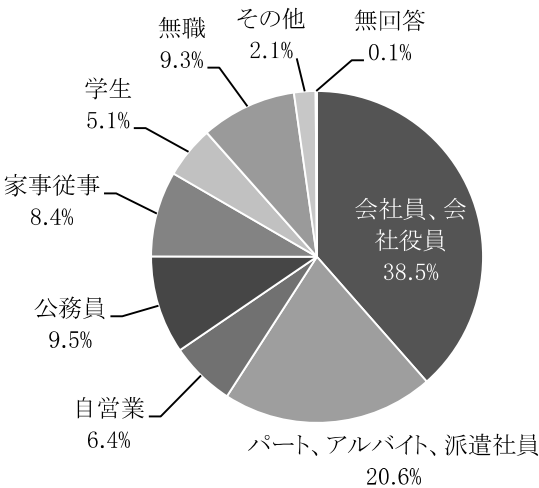
(3)居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	411	48.4%
西濃圏域	125	14.7%
中濃圏域	176	20.7%
東濃圏域	101	11.9%
飛騨圏域	36	4.2%
計	849	100.0%



(4)職業別

	人数	割合
会社員、会社役員	327	38.5%
パート、アルバイト、派遣社員	175	20.6%
自営業	54	6.4%
公務員	81	9.5%
家事従事	71	8.4%
学生	43	5.1%
無職	79	9.3%
その他	18	2.1%
無回答	1	0.1%
計	849	100.0%



防災に関するアンケート調査結果

危機管理政策課・防災課

1 調査目的

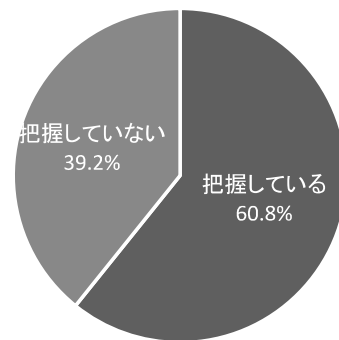
災害に対する事前の備えに関する取組状況について、各種計画推進の基礎資料とさせていただくために、アンケート調査を実施しました。

2 調査結果

■「災害全般に対する備え」について

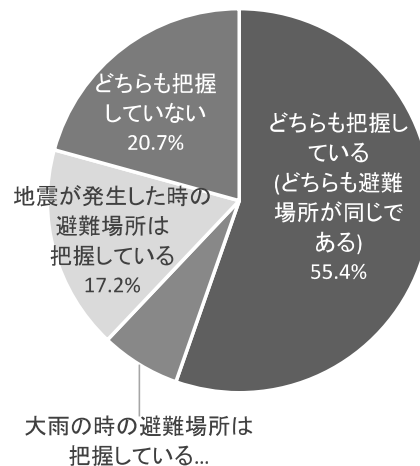
問1 あなたは、居住地域にどんな災害発生の危険性があるのかハザードマップで把握していますか。

	人数	割合
把握している	516	60.8%
把握していない	333	39.2%
計	849	100%



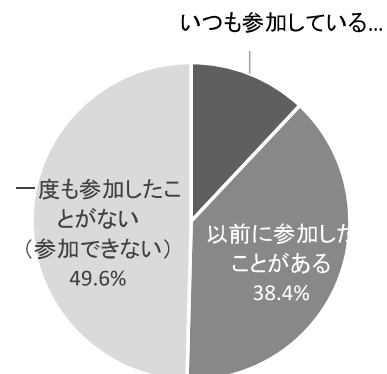
問2 あなたは、大雨の時の避難場所と地震が発生した時の避難場所をそれぞれ把握していますか。次の中から1つあげてください。

	人数	割合
どちらも把握している (どちらも避難場所が同じである)	470	55.4%
大雨の時の避難場所は 把握している	57	6.7%
地震が発生した時の避難場所は 把握している	146	17.2%
どちらも把握していない	176	20.7%
計	849	100%



問3 あなたは、地域で行われている自主防災活動(防災訓練など)に参加したことがありますか。次の中から1つあげてください。

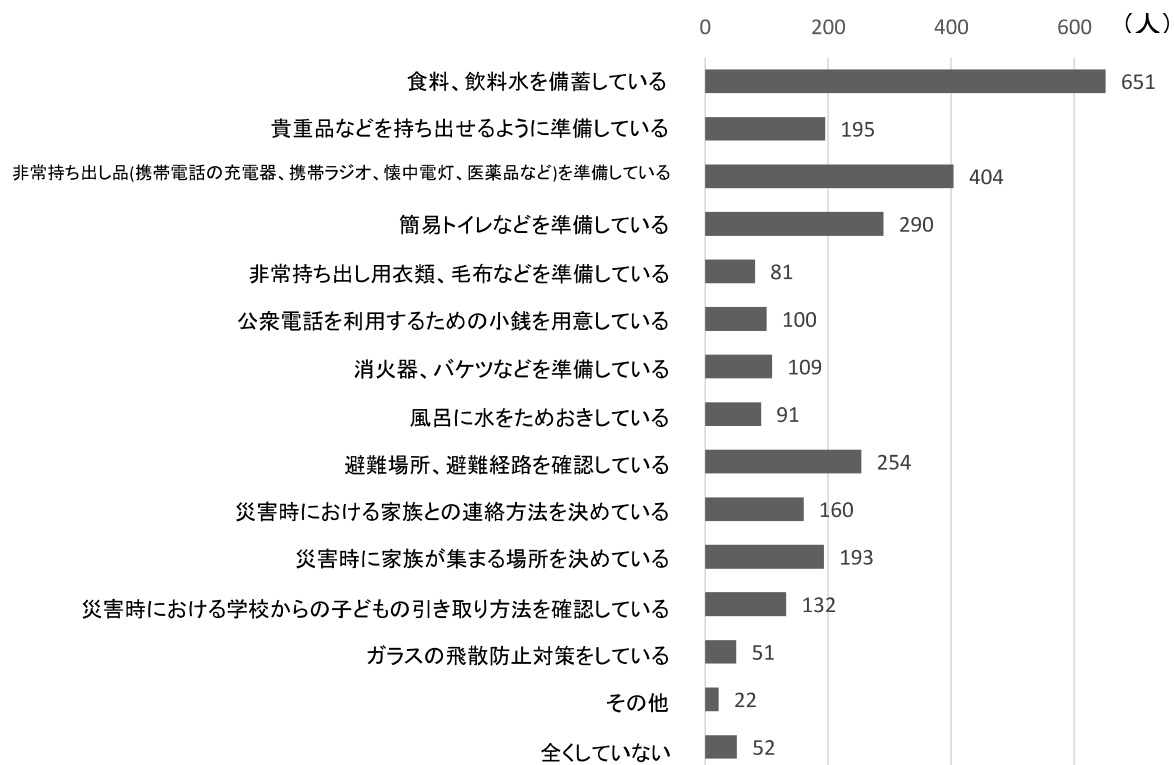
	人数	割合
いつも参加している	102	12.0%
以前に参加したことがある	326	38.4%
一度も参加したことがない (参加できない)	421	49.6%
計	849	100%



問4 あなたのお宅で地震や台風などの緊急時に備えていることはありますか。次の中からあてはまるものをすべてあげてください。

(複数回答可 回答者849人)

	回答数	割合
食料、飲料水を備蓄している	651	76.7%
貴重品などを持ち出せるように準備している	195	23.0%
非常持ち出し品(携帯電話の充電器、携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品など)を準備している	404	47.6%
簡易トイレなどを準備している	290	34.2%
非常持ち出し用衣類、毛布などを準備している	81	9.5%
公衆電話を利用するための小銭を用意している	100	11.8%
消火器、バケツなどを準備している	109	12.8%
風呂に水をためおきしている	91	10.7%
避難場所、避難経路を確認している	254	29.9%
災害時における家族との連絡方法を決めている	160	18.8%
災害時に家族が集まる場所を決めている	193	22.7%
災害時における学校からの子どもの引き取り方法を確認している	132	15.5%
ガラスの飛散防止対策をしている	51	6.0%
その他	22	2.6%
全くしていない	52	6.1%
計	2,785	



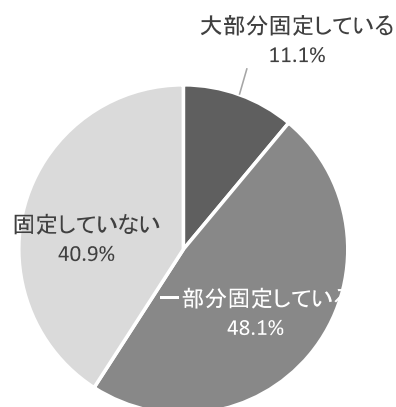
「その他」のうち主なもの

- ・住宅用蓄電池を設置している。
- ・寝室に懐中電灯やヘルメットを置いている。
- ・家具を固定している。

■「大規模地震に対する備え」について

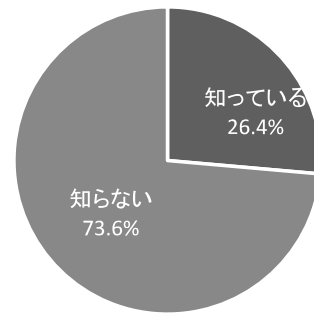
問5 あなたのお宅では、大規模地震に備えた転倒防止対策として、家具・冷蔵庫・テレビなどを、どの程度固定していますか。次の中から1つあげてください。

	人数	割合
大部分固定している	94	11.1%
一部分固定している	408	48.1%
固定していない	347	40.9%
計	849	100%



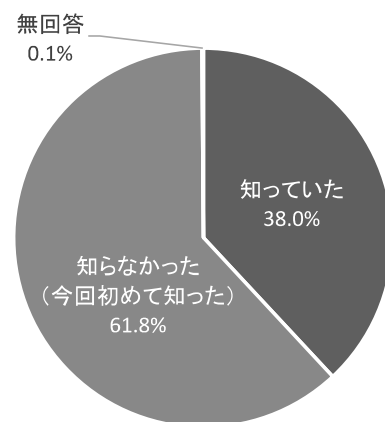
問6 あなたは、ご自分の居住地の近くにある活断層の存在をご存じですか。

	人数	割合
知っている	224	26.4%
知らない	625	73.6%
計	849	100%



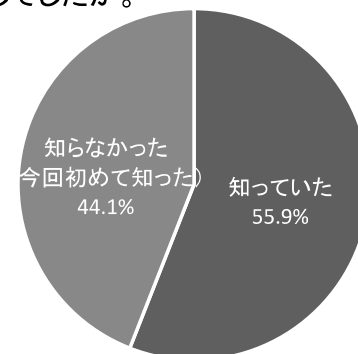
問7 あなたは、お住まいの地域が「南海トラフ地震防災対策推進地域」か、またはそうでないかをご存じでしたか。

	人数	割合
知っていた	323	38.0%
知らなかった (今回初めて知った)	525	61.8%
無回答	1	0.1%
計	849	100%



問8 あなたは、南海トラフ地震臨時情報についてご存じでしたか。

	人数	割合
知っていた	475	55.9%
知らなかった (今回初めて知った)	374	44.1%
計	849	100%



在宅医療・介護に関するアンケート調査結果

医療福祉連携推進課

1 調査目的

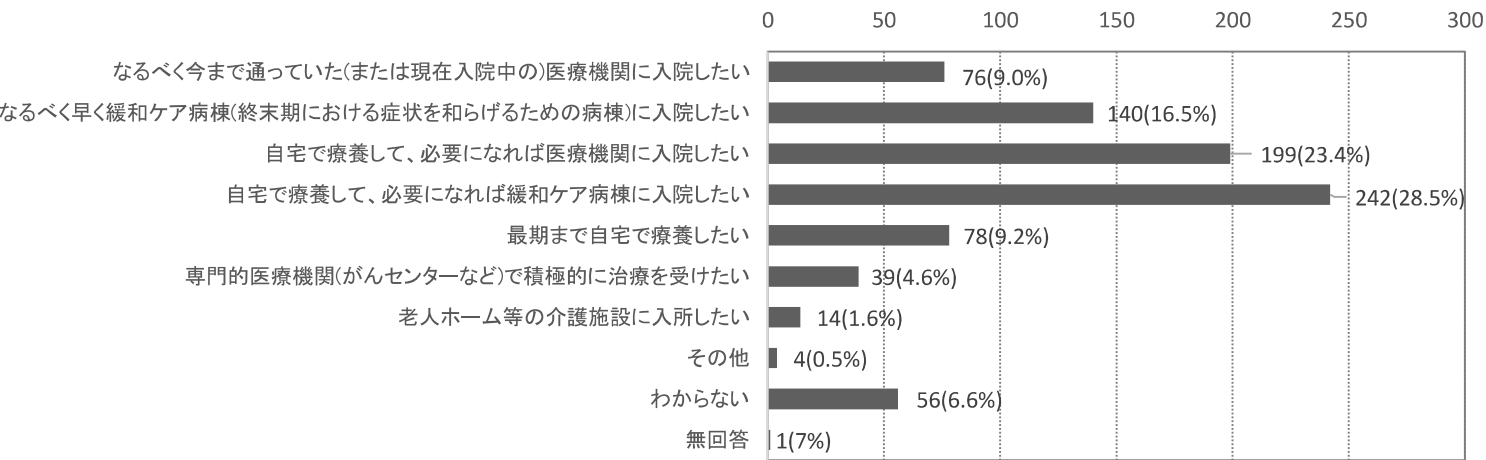
県民の医療・介護についての意識や生活の現状を把握し、今後の施策の参考とするため。

2 調査結果

問 1 もし、あなたが病気などにより治る見込みがなく、死期が迫っている（おおよそ6カ月以内）と告げられた場合、どこで療養することを希望しますか（希望に最も近いものを1つ選択）。

	回答者 回答数	849 人 割合
なるべく今まで通っていた(または現在入院中の)医療機関に入院したい	76	9.0%
なるべく早く緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげるための病棟)に入院したい	140	16.5%
自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい	199	23.4%
自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい	242	28.5%
最期まで自宅で療養したい	78	9.2%
専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい	39	4.6%
老人ホーム等の介護施設に入所したい	14	1.6%
その他	4	0.5%
わからない	56	6.6%
無回答	1	0.1%
計	849	100.0%

(人)

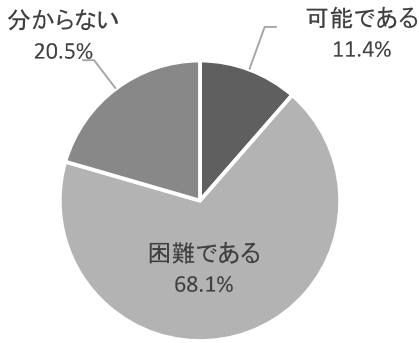


「その他」のうち主なもの

- ・住んでいる地域にできるだけ近い医療機関や介護施設で、身の回りのこともお願いしつつ、家族や知人にも積極的に会える環境で療養したい。
- ・死期に合わせて旅をして誰にも迷惑のかからないところで死にたい。

問2 ご自身が最後まで自宅で療養することについて、可能だと思いますか。 回答者 849 人

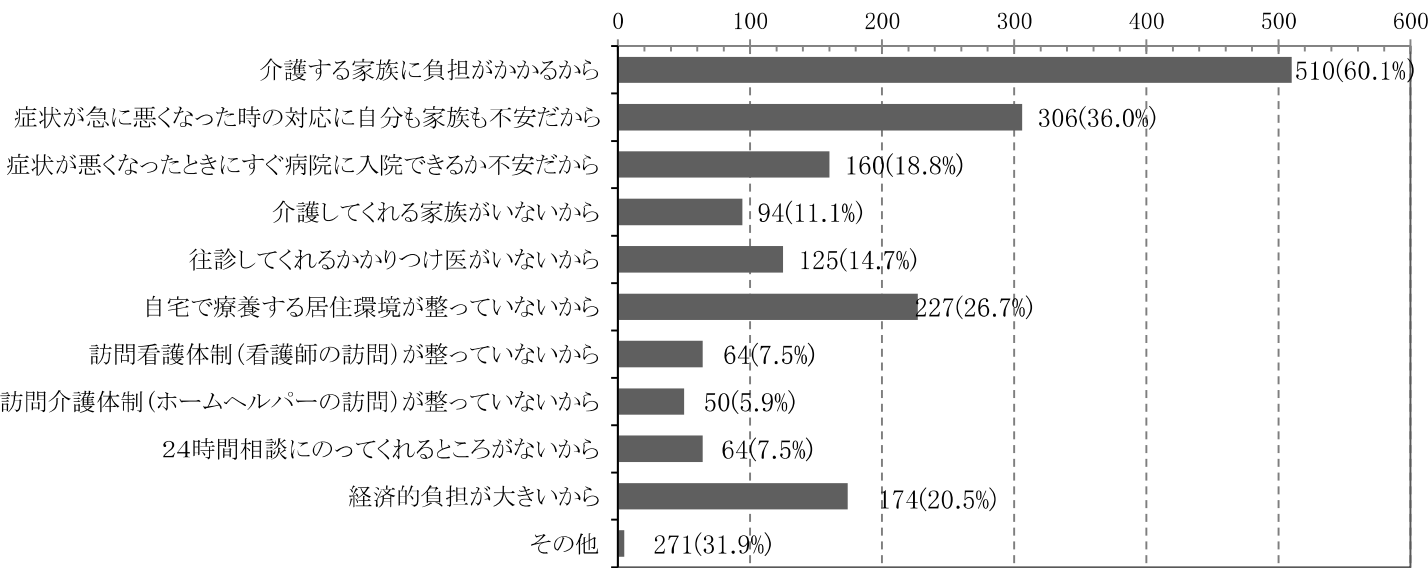
	人数	割合
可能である	97	11.4%
困難である	578	68.1%
分からない	174	20.5%
計	849	100.0%



問3（問2で「困難である」と答えた方にお尋ねします。）
困難であると思う理由を次の中からすべて選んでください。

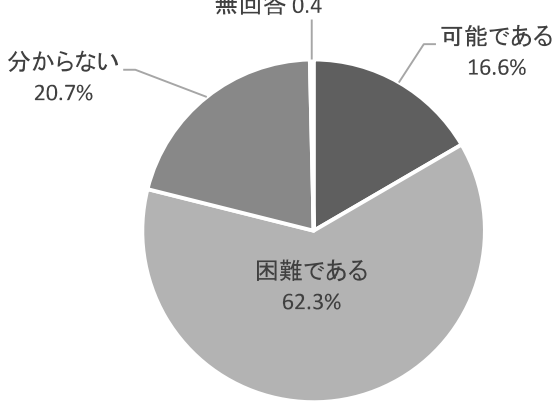
(複数回答)回答者 578人

	回答数	割合
介護する家族に負担がかかるから	510	60.1%
症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安だから	306	36.0%
症状が悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安だから	160	18.8%
介護してくれる家族がいないから	94	11.1%
往診してくれるかかりつけ医がいないから	125	14.7%
自宅で療養する居住環境が整っていないから	227	26.7%
訪問看護体制(看護師の訪問)が整っていないから	64	7.5%
訪問介護体制(ホームヘルパーの訪問)が整っていないから	50	5.9%
24時間相談にのってくれるところがないから	64	7.5%
経済的負担が大きいから	174	20.5%
その他	5	0.6%
計	1779	-



問4 ご家族が最後まで自宅で療養することについて、可能だと思いますか。 回答者 849 人

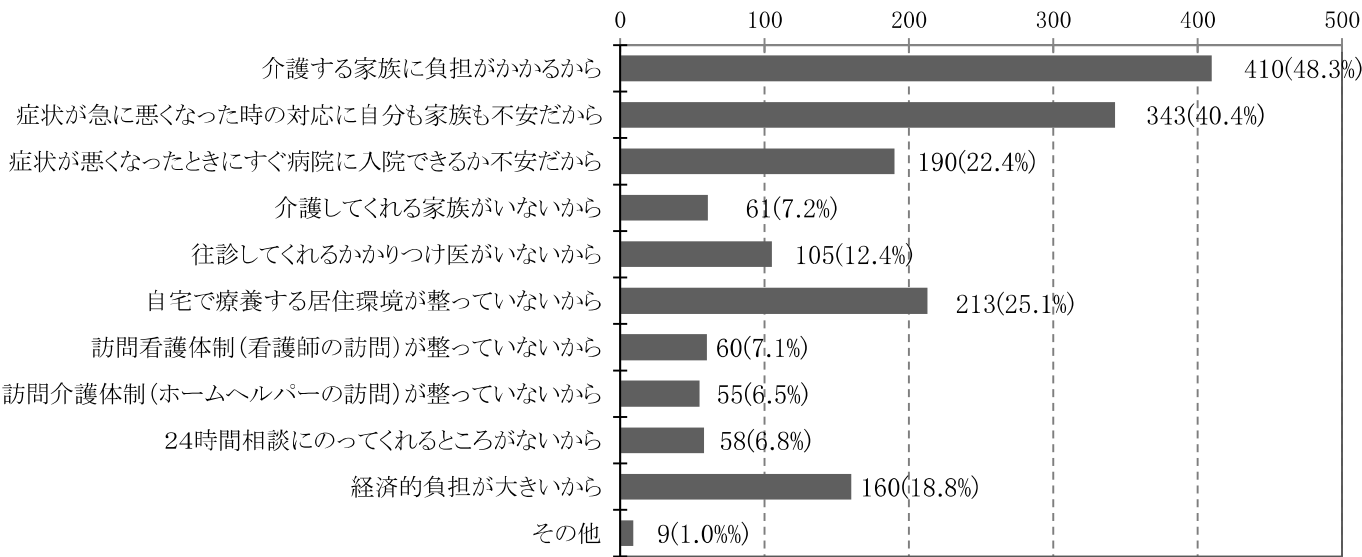
	人数	割合
可能である	141	16.6%
困難である	529	62.3%
分からない	176	20.7%
無回答	3	0.4%
計	849	100.0%



問5 （問4で「2 困難である」と答えた方にお尋ねします。）
困難であると思う理由を次の中からすべて選んでください。

(複数回答) 回答者 529 人
回答数 割合

介護する家族に負担がかかるから	410	48.3%
症状が急に悪くなった時の対応に自分も家族も不安だから	343	40.4%
症状が急に悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安だから	190	22.4%
介護してくれる家族がいないから	61	7.2%
往診してくれるかかりつけ医がいないから	105	12.4%
自宅で療養する居住環境が整っていないから	213	25.1%
訪問看護体制(看護師の訪問)が整っていないから	60	7.1%
訪問介護体制(ホームヘルパーの訪問)が整っていないから	55	6.5%
24時間相談にのってくれるところがないから	58	6.8%
経済的負担が大きいため	160	18.8%
その他	9	1.0%
計	1664	-



問6 在宅医療または介護についてご意見・ご要望・ご感想などございましたら、お聞かせください。
(自由記述)

○在宅医療・介護の体制整備

- ・地域一体となって、在宅医療できる環境が整っているとありがたい。
- ・介護する家族が会社勤めだと、働き方を変えなくては自宅での介護は難しい。
- ・職場が在宅介護に理解あり、かつ職場環境が整っているなら可能だと思う。
- ・24時間家族以外の他人介護・看護が受けられるような状態であればよいが、仕事を続けながらで夫婦2人ではどうにもならない。

○人材の確保

- ・訪問介護の人手不足の問題を近くで耳にし、将来に不安を感じる。
- ・今後の人手不足により在宅医療や介護が受けられるか心配。
- ・介護・在宅医療を支える人たちの生活面の支援が足りてなく、離職率の高さを何とかするべきだ。

○施設の整備

- ・特養の待機問題が気になる。
- ・在宅医療を支える医療機関が少なく不安。また国の制度改革があるたびに変更等があり、今の制度が永続的に使える安心感を持たせる必要があると感じる。

○介護者への支援、補助の充実

- ・肉体的、精神的に家族への負担が大きくなる。
- ・在宅での対応は、家族の負担が大きく、また家族の理解や協力がなくてはほぼ不可能だと思う。

○費用面について

- ・住み慣れた自宅で療養したい気持ちはあるが、実際設備や介護者の負担を考えると、症状が重くなったら病院に行くしかないと思う。
- ・入院の方が経済的に負担が大きい気がする。 介護保険を使えば、自宅での療養が安く実現できるならそちらを望む。
- ・在宅で医療を受けるためには、医療機器や介護設備などの整備が不可欠であり、それにかかる費用負担が大きな障壁となっている。補助金制度の拡充を望む。

○普及啓発

- ・訪問介護制度に関する知識が乏しい。
- ・在宅医療について調べたいとき、相談したいときどこに問い合わせればよいのか分からない。
- ・在宅医療がまだ身近なものとなっていない為、基礎知識が学べるサイトなどが整備されると良いと思う。

○その他

- ・家族をできる限り家で介護することが普通と思える。
- ・その時になってみないと分からない。
- ・最後は安らかに死にたい。
- ・このアンケートで自分の終末期について考えるきっかけとなった。
- ・本人の意思が尊重されることが重要。
- ・延命のための在宅医療や介護をしていくのではなく、緩和ケアを重視して欲しい。

岐阜県の観光に関する住民意識調査結果

観光文化スポーツ政策課

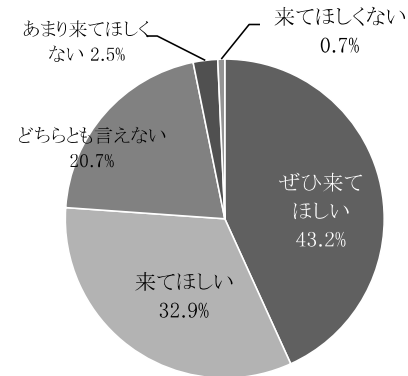
1 調査目的

地域住民の観光に関する意識を把握し、「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な観光地域づくりを推進するための、県の観光施策立案の参考とします。

2 調査結果

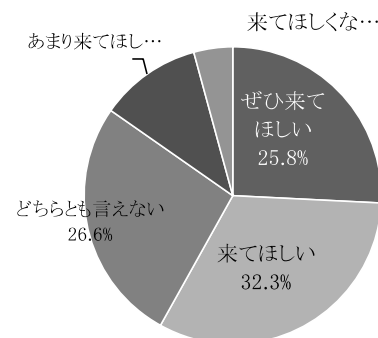
問1 お住まいの地域(市町村)に「日本人観光客」が訪れることについてどう思いますか。

	人数	割合
ぜひ来てほしい	367	43.2%
来てほしい	279	32.9%
どちらとも言えない	176	20.7%
あまり来てほしくない	21	2.5%
来てほしくない	6	0.7%
計	849	100.0%



問2 お住まいの地域(市町村)に「外国人観光客」が訪れることについてどう思いますか。

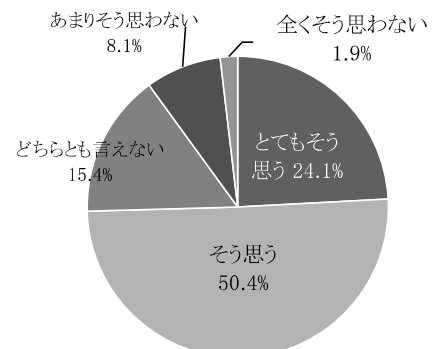
	人数	割合
ぜひ来てほしい	219	25.8%
来てほしい	274	32.3%
どちらとも言えない	226	26.6%
あまり来てほしくない	94	11.1%
来てほしくない	36	4.2%
計	849	100.0%



問3 現在、お住まいの地域(市町村)に観光客が訪れることにより、あなたの生活にどのようなプラスの影響があると感じていますか。

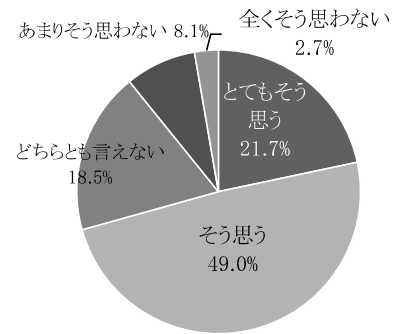
(1) 新規出店の増加による買い物環境の向上等により、地域のにぎわいが向上する

	人数	割合
とてもそう思う	205	24.1%
そう思う	428	50.4%
どちらとも言えない	131	15.4%
あまりそう思わない	69	8.1%
全くそう思わない	16	1.9%
計	849	100.0%



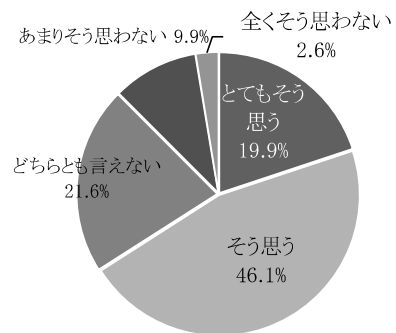
(2) 就業機会の増加や、売上の増加など、収入への好影響がある

	人数	割合
とてもそう思う	184	21.7%
そう思う	416	49.0%
どちらとも言えない	157	18.5%
あまりそう思わない	69	8.1%
全くそう思わない	23	2.7%
計	849	100.0%



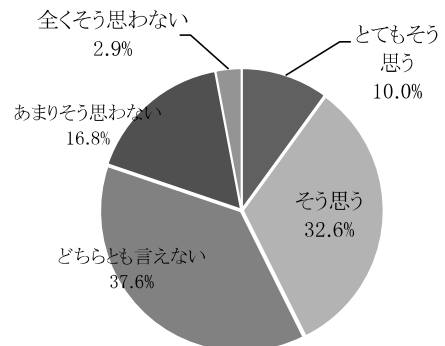
(3) インフラや交通サービスの整備が促進される

	人数	割合
とてもそう思う	169	19.9%
そう思う	391	46.1%
どちらとも言えない	183	21.6%
あまりそう思わない	84	9.9%
全くそう思わない	22	2.6%
計	849	100.0%



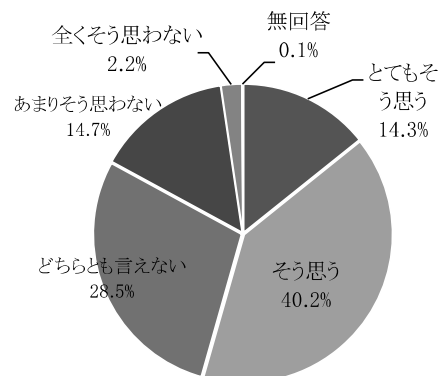
(4) 交流人口の増加により、移住者が増加する

	人数	割合
とてもそう思う	85	10.0%
そう思う	277	32.6%
どちらとも言えない	319	37.6%
あまりそう思わない	143	16.8%
全くそう思わない	25	2.9%
計	849	100.0%



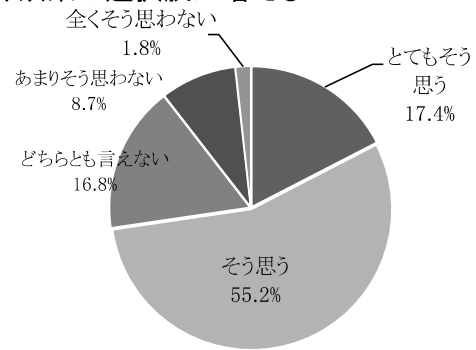
(5) 文化・伝統が保存・継承される

	人数	割合
とてもそう思う	121	14.3%
そう思う	341	40.2%
どちらとも言えない	242	28.5%
あまりそう思わない	125	14.7%
全くそう思わない	19	2.2%
無回答	1	0.1%
計	849	100.0%



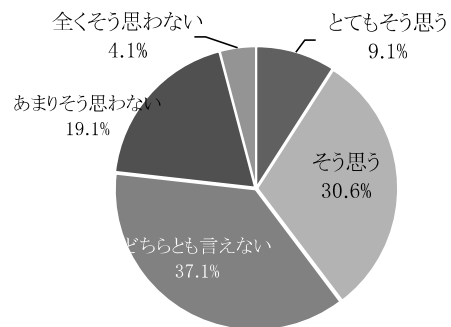
(6) 観光スポットやコンテンツの増加により、文化、娯楽の選択肢が増える

	人数	割合
とてもそう思う	148	17.4%
そう思う	469	55.2%
どちらとも言えない	143	16.8%
あまりそう思わない	74	8.7%
全くそう思わない	15	1.8%
計	849	100.0%



(7) 自然資源の活用により自然環境・景観が保全される

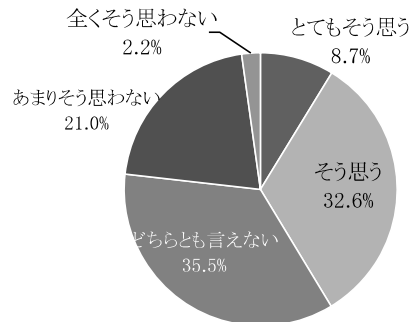
	人数	割合
とてもそう思う	77	9.1%
そう思う	260	30.6%
どちらとも言えない	315	37.1%
あまりそう思わない	162	19.1%
全くそう思わない	35	4.1%
計	849	100.0%



問4 現在、お住まいの地域(市町村)に観光客が訪れることにより、あなたの生活にどのようなマイナスの影響があると感じていますか。

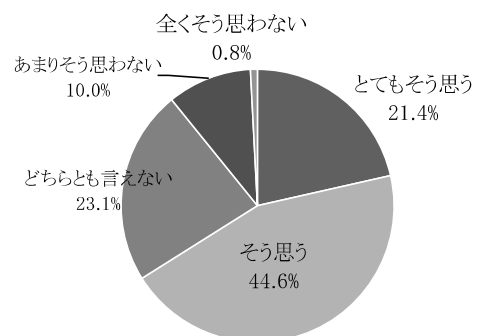
(1) 観光地化により、物価が上昇する

	人数	割合
とてもそう思う	74	8.7%
そう思う	277	32.6%
どちらとも言えない	301	35.5%
あまりそう思わない	178	21.0%
全くそう思わない	19	2.2%
計	849	100.0%



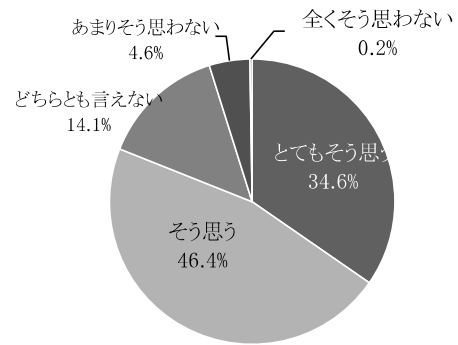
(2) 不特定多数の来訪者により治安が悪化する

	人数	割合
とてもそう思う	182	21.4%
そう思う	379	44.6%
どちらとも言えない	196	23.1%
あまりそう思わない	85	10.0%
全くそう思わない	7	0.8%
計	849	100.0%



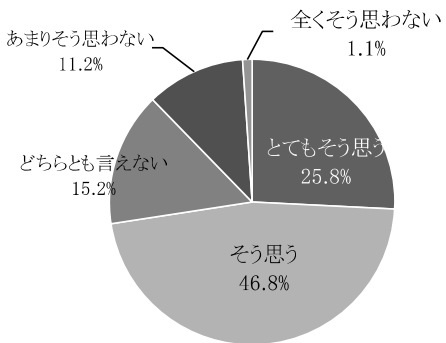
(3) 観光客による、ごみのポイ捨てや私有地への侵入などマナー違反がおこる

	人数	割合
とてもそう思う	294	34.6%
そう思う	394	46.4%
どちらとも言えない	120	14.1%
あまりそう思わない	39	4.6%
全くそう思わない	2	0.2%
計	849	100.0%



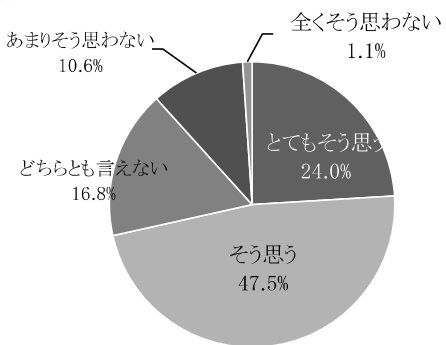
(4) 公共交通機関の混雑や道路の渋滞が発生する

	人数	割合
とてもそう思う	219	25.8%
そう思う	397	46.8%
どちらとも言えない	129	15.2%
あまりそう思わない	95	11.2%
全くそう思わない	9	1.1%
計	849	100.0%



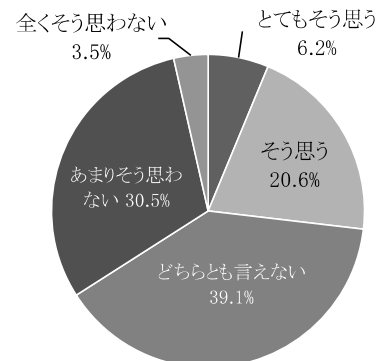
(5) 一部の公共的な施設やスペースが過剰に混雑する

	人数	割合
とてもそう思う	204	24.0%
そう思う	403	47.5%
どちらとも言えない	143	16.8%
あまりそう思わない	90	10.6%
全くそう思わない	9	1.1%
計	849	100.0%



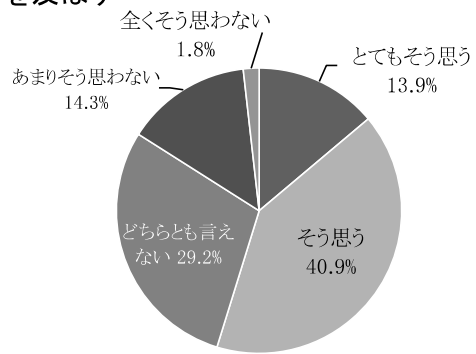
(6) 観光地化により、看板等による景観の変化や観光客向けの商品を扱う店の増加など、地域文化の独自性が損なわれる

	人数	割合
とてもそう思う	53	6.2%
そう思う	175	20.6%
どちらとも言えない	332	39.1%
あまりそう思わない	259	30.5%
全くそう思わない	30	3.5%
計	849	100.0%



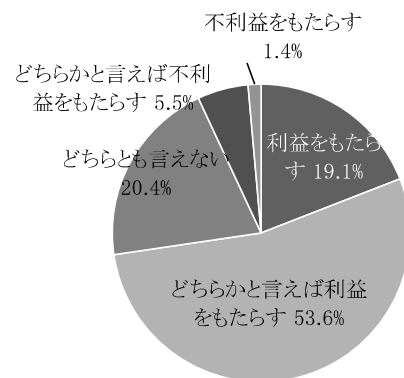
(7) 開発や廃棄物の増加など自然環境に悪影響を及ぼす

	人数	割合
とてもそう思う	118	13.9%
そう思う	347	40.9%
どちらとも言えない	248	29.2%
あまりそう思わない	121	14.3%
全くそう思わない	15	1.8%
計	849	100.0%



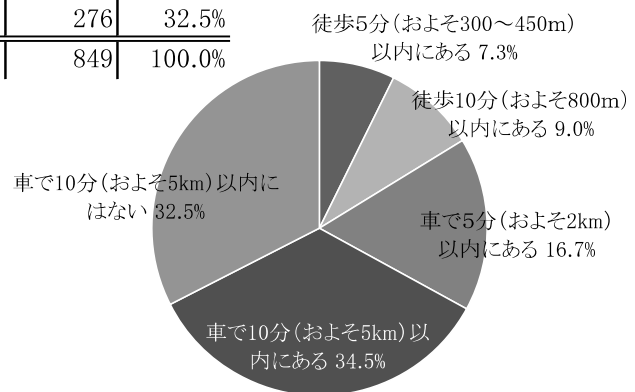
問5 お住まいの地域(市町村)にとって観光は利益と不利益のどちらをもたらすと思いますか。

	人数	割合
利益をもたらす	162	19.1%
どちらかと言えば利益をもたらす	455	53.6%
どちらとも言えない	173	20.4%
どちらかと言えば不利益をもたらす	47	5.5%
不利益をもたらす	12	1.4%
計	849	100.0%



問6 お住まいの場所付近に有名な観光スポットや観光施設はありますか。

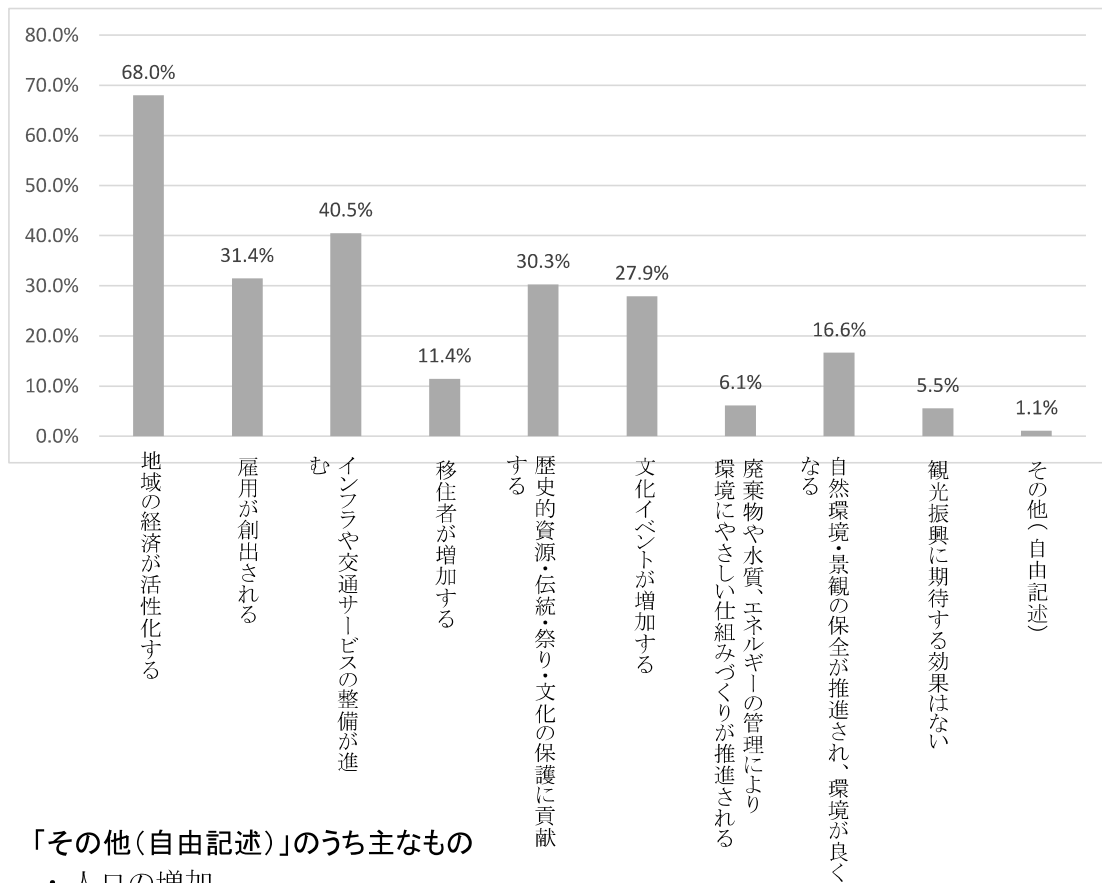
	人数	割合
徒歩5分(およそ300～450m)以内にある	62	7.3%
徒歩10分(およそ800m)以内にある	76	9.0%
車で5分(およそ2km)以内にある	142	16.7%
車で10分(およそ5km)以内にある	293	34.5%
車で10分(およそ5km)以内にはない	276	32.5%
計	849	100.0%



問7 お住まいの地域(市町村)の観光振興に期待する効果(どんな地域にしたいか)を教えてください。特に当てはまるものを3つまでお選びください。

(複数回答) 回答者 849 人

	回答数	割合
地域の経済が活性化する	577	68.0%
雇用が創出される	267	31.4%
インフラや交通サービスの整備が進む	344	40.5%
移住者が増加する	97	11.4%
歴史的資源・伝統・祭り・文化の保護に貢献する	257	30.3%
文化イベントが増加する	237	27.9%
廃棄物や水質、エネルギーの管理により環境にやさしい仕組みづくりが推進される	52	6.1%
自然環境・景観の保全が推進され、環境が良くなる	141	16.6%
観光振興に期待する効果はない	47	5.5%
その他(自由記述)	9	1.1%
計	2,028	-

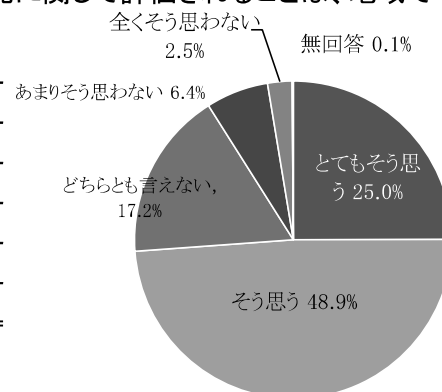


「その他(自由記述)」のうち主なもの

- ・人口の増加
- ・交流人口の増加
- ・観光スポットの増加
- ・日本の暮らしが体験できる田舎、地方都市になること

問 8 あなたのお住まいの地域(市町村)が観光に関して評価されることは、地域で暮らすことの誇りにつながると思いますか。

	人数	割合
とても思う	212	25.0%
そう思う	415	48.9%
どちらとも言えない	146	17.2%
あまりそう思わない	54	6.4%
全くそう思わない	21	2.5%
無回答	1	0.1%
計	849	100.0%



「清流の国ぎふ森林・環境税」に関するアンケート調査結果

森林活用推進課

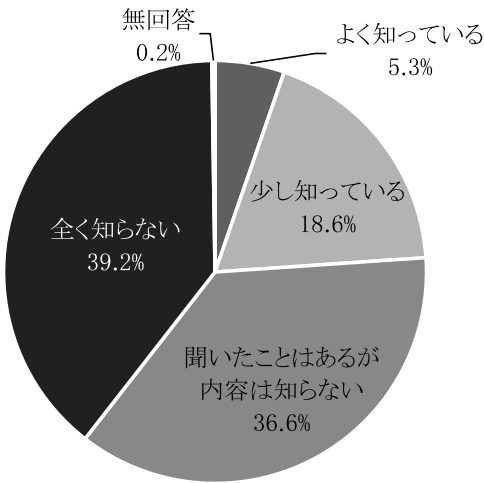
1 調査目的

「清流の国ぎふ森林・環境税」(以下「県森林・環境税」という。)に対する県民の皆さんの意識を把握し、今後の森林・環境施策の基礎資料とさせていただくために、ご意見などを伺いました。

2 調査結果

問1 あなたは、県森林・環境税について知っていますか。

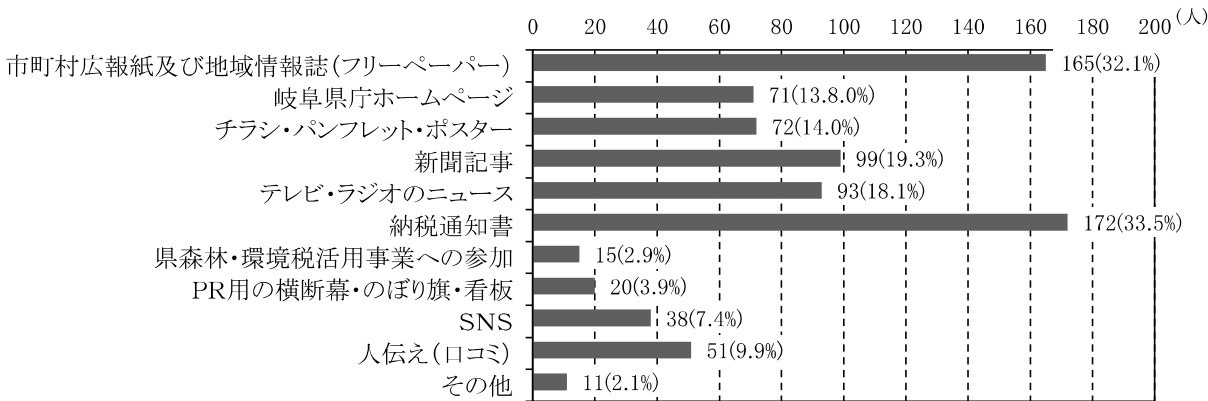
	人数	割合
よく知っている	45	5.3%
少し知っている	158	18.6%
聞いたことはあるが 内容は知らない	311	36.6%
全く知らない	333	39.2%
無回答	2	0.2%
計	849	100.0%



(問1で「よく知っている」「少し知っている」「聞いたことはあるが内容は知らない」と答えた方)
問2 あなたが、これまでに県森林・環境税について見たり聞いたりしたことのある媒体について、次の中からあてはまるものをすべてあげてください。

(複数回答) 回答者 514 人

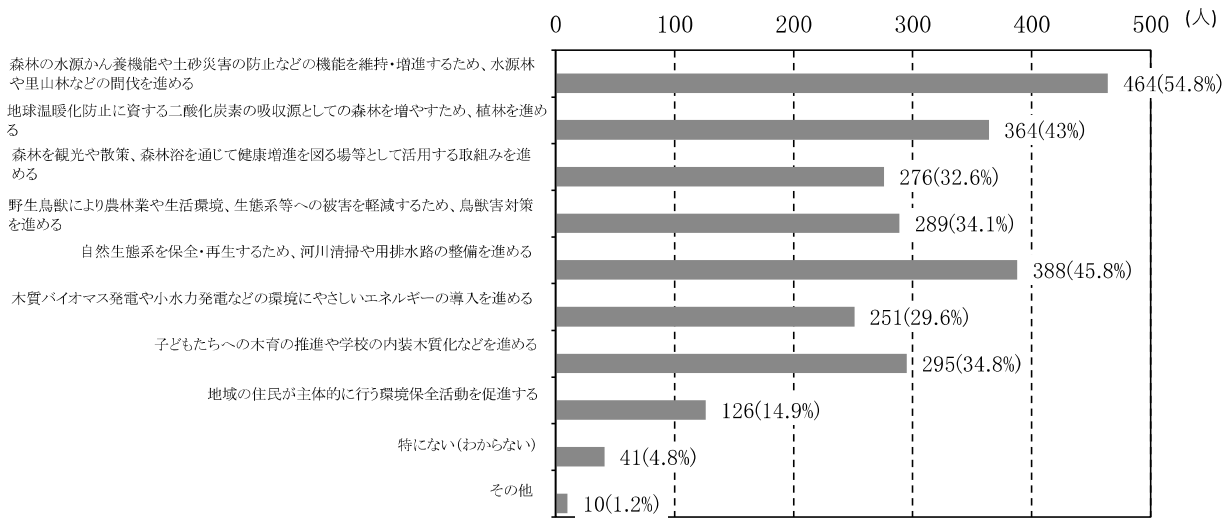
	回答数	割合
市町村広報紙及び地域情報誌(フリーペーパー)	165	32.1%
岐阜県庁ホームページ	71	13.8%
チラシ・パンフレット・ポスター	72	14.0%
新聞記事	99	19.3%
テレビ・ラジオのニュース	93	18.1%
納税通知書	172	33.5%
県森林・環境税活用事業への参加	15	2.9%
PR用の横断幕・のぼり旗・看板	20	3.9%
SNS	38	7.4%
人伝え(口コミ)	51	9.9%
その他	11	2.1%
計	807	-



【その他】 住民税通知書、市役所に配置されているベンチ、大学の授業 等

問3 県森林・環境税は、現在、森林づくりや、川づくり、水環境の保全などに関する取組みに活用されています。県森林・環境税を活用して、あなたが県に取り組んでほしいと思うものについて、次の中からあてはまるものをすべてあげてください。

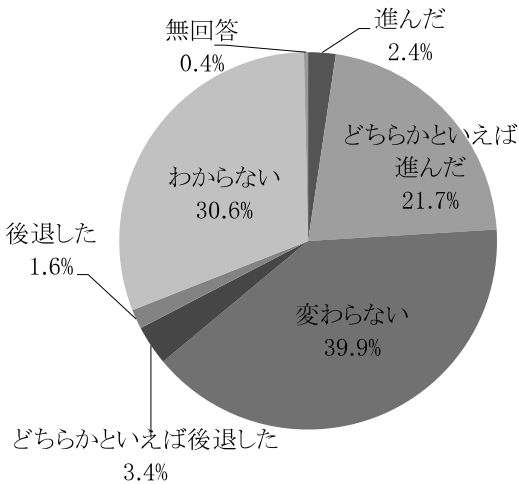
(複数回答)		回答者	847 人
		回答数	割合
森林の水源かん養機能や土砂災害の防止などの機能を維持・増進するため、水源林や里山林などの間伐を進める		464	54.8%
地球温暖化防止に資する二酸化炭素の吸収源としての森林を増やすため、植林を進める		364	43.0%
森林を観光や散策、森林浴を通じて健康増進を図る場等として活用する取組みを進める		276	32.6%
野生鳥獣による農林業や生活環境、生態系等への被害を軽減するため、鳥獣害対策を進める		289	34.1%
自然生態系を保全・再生するため、河川清掃や用排水路の整備を進める		388	45.8%
木質バイオマス発電や小水力発電などの環境にやさしいエネルギーの導入を進める		251	29.6%
子どもたちへの木育の推進や学校の内装木質化などを進める		295	34.8%
地域の住民が主体的に行う環境保全活動を促進する		126	14.9%
特にない(わからない)		41	4.8%
その他		10	1.2%
計		2,504	—



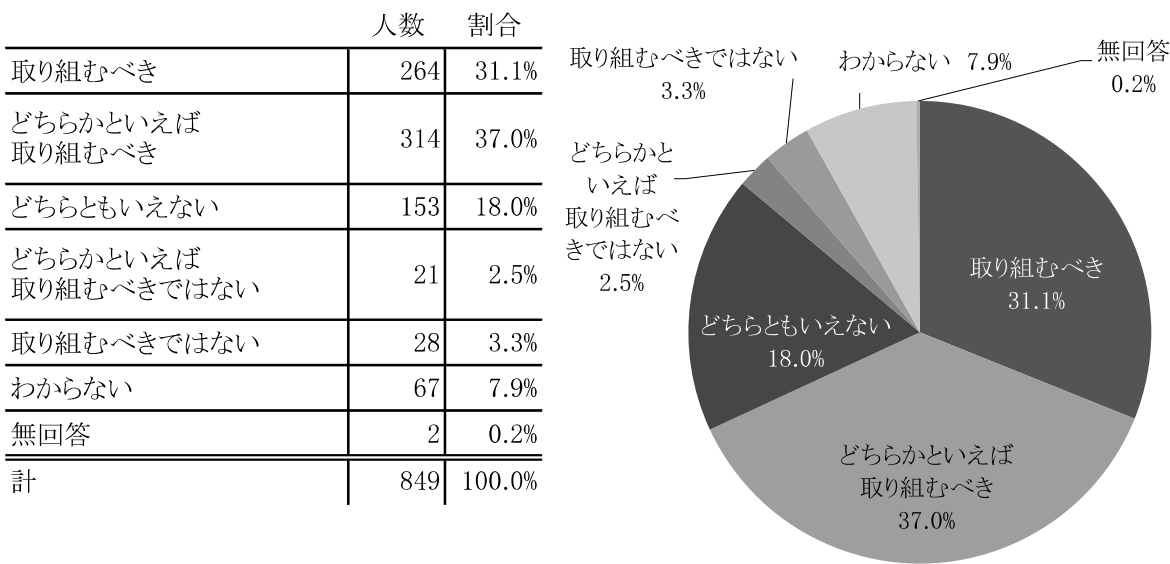
【その他】 水源林の公有林化、針葉樹を伐採して広葉樹を植林する活動 等

問4 近年、森林や川、水環境、生物多様性、自然環境に関する県の施策は進んだと感じますか。

	人数	割合
進んだ	20	2.4%
どちらかといえば進んだ	184	21.7%
変わらない	339	39.9%
どちらかといえば後退した	29	3.4%
後退した	14	1.6%
わからない	260	30.6%
無回答	3	0.4%
計	849	100.0%



問5 現在の県森林・環境税は、令和8年度までを課税期間とし、自然環境の保全・再生に活用されています。令和9年度以降も、県森林・環境税を活用し、森林や自然環境に関する施策に取り組むべきだと思いますか。



問6 その他、森林や自然環境に関する県の施策に対して、ご意見などがございましたら、お聞かせください。

- 【主な意見】
- (広報について)
- これまでの取り組みの結果・効果等を具体的に広報されたい。
 - 森林を守ることは、環境保全や災害防止の観点から非常に重要であり、将来の世代に向けた投資だと考え、その意味で森林環境税として年間1,000円を負担すること自体は妥当だと思う。税の使い道が見える形で公表されることは、住民の理解と協力を得るうえで不可欠。単なる数字だけでなく、写真や地図、関係者の声などを交えた分かりやすい情報発信を希望。
- (問題提起)
- 耕作放棄地の活用方法が太陽光発電となることが多い。農園や特産物を作るなど自然を活かした方法が広く知られれば、もっと良い場所、子どもが健やかに安心安全に育つ場所に繋がると思う。
 - 間伐されていない針葉樹林が多くあり、手入れが十分に施されていないように思う。林業従事者の減少や高齢化、国内木材の高価格化を考えると針葉樹林から広葉樹林への転換を進めた方が良いのではないかな。
 - 花粉症対策と鳥獣害対策を兼ねて、スギやヒノキ以外の木(ドングリなど動物のエサになるもの)を山に植林してほしい。山を削って太陽光発電パネルの設置は景観を損ねたり、土砂災害の危険等があるので、やめてほしい。
- (使途について)
- 伊吹山のシカの例にもあるように、土砂崩れ等が怖いので、他の森林等も対策をしてほしい。
 - 木遊館のような木育に力を入れた場所がたくさんあるといい。実際に行ったが、木のおもちゃは独特の温かさがあり、自然由来で安心して遊べるところもいいと思うので、小さい頃から遊べるようにたくさんあってもいいと思う。
 - 多種多様な補助事業があるが、補助事業を活用できるのはある程度まとまった量の木材を使用する場合に限られることが多いため、活用できる事業者に限られる。特に飛騨地方には、個人や少人数で活動している優れた木工家も多いので、そういった人たちも利用しやすい施策があるといい。

(その他)

- 自然豊かな県であり、それを維持管理して安心安全を第一に後世にも大切に残してほしい。そのための税金ならやむを得ない。
- 森や川など自然豊かな県であることが魅力だと感じている。税金として集め、環境保全活動に生かしていただき、県の魅力を豊かにしてほしい。自然と共存しながら暮らせる県であってほしい。
- 国の環境税も始まっており、県環境税の森林部門は国の環境税で行えばいいのではないのでしょうか。
- 一律の課税はおかしい。これ以上税金を増やさないでほしい。生活が苦しい。

交通手段に関するアンケート調査

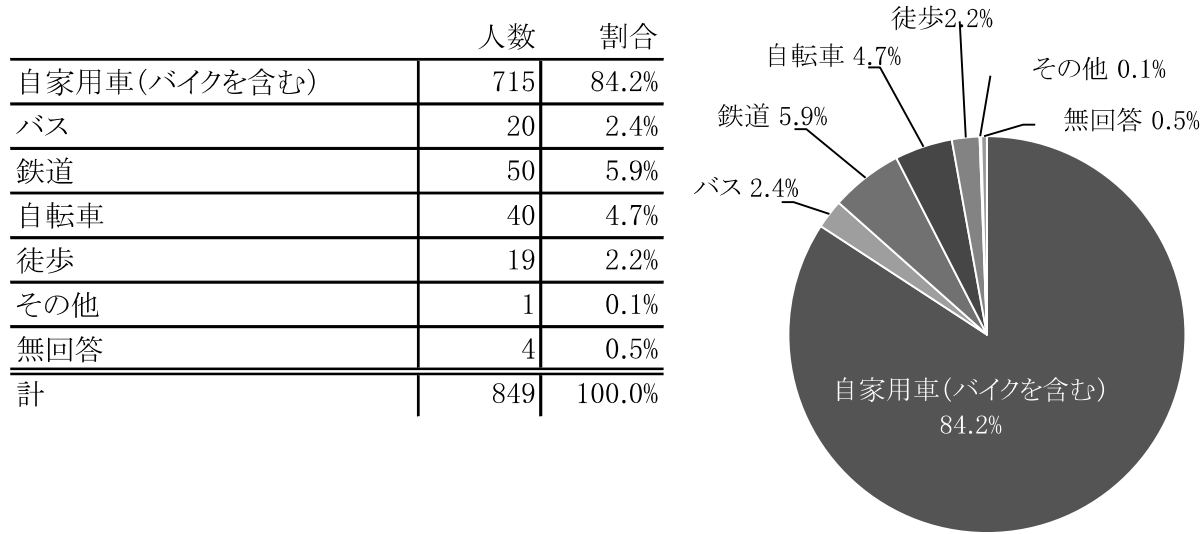
都市政策課、公共交通課

1 調査目的

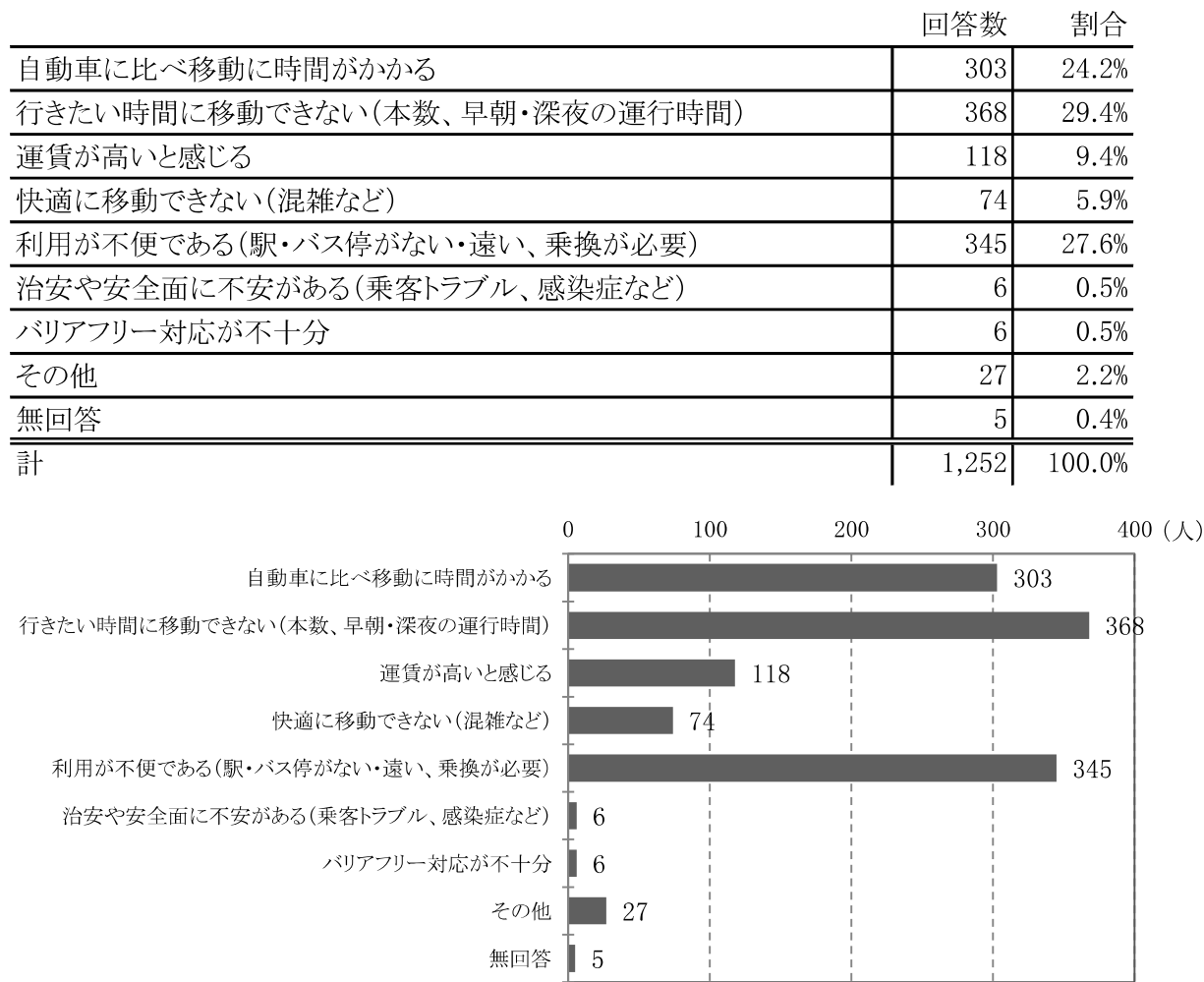
県民の皆様の交通手段について、現状を把握し、今後の参考とさせていただくため、アンケート調査を実施しました。

2 調査結果

問 1 あなたが日常生活で最もよく利用する交通手段を教えてください。(1つ)



問 2 (問1で「1 自家用車(バイクを含む)」と答えた方)
主な交通手段として「バス」や「鉄道」を利用しない理由を教えてください。
(2つまで回答) 回答者 715 人

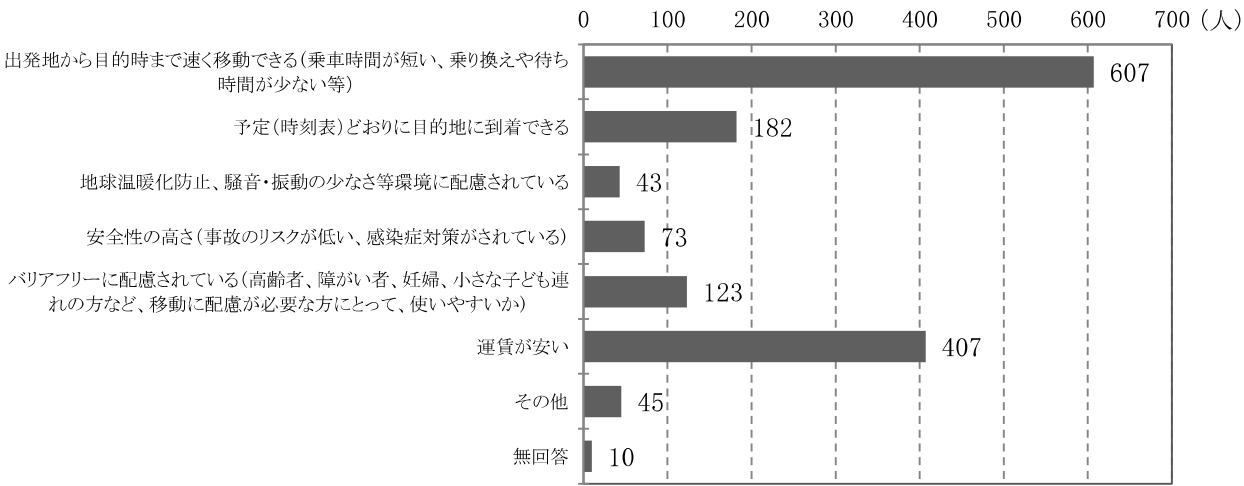


問3 （問1で「1 自家用車（バイクを含む）」と答えた方）
今後、便利な公共交通が整備されれば自家用車（バイクを含む）から交通手段を変更しますか。 回答者 715 人

	人数	割合
はい	342	47.8%
いいえ	369	51.6%
無回答	4	0.6%
計	715	100.0%

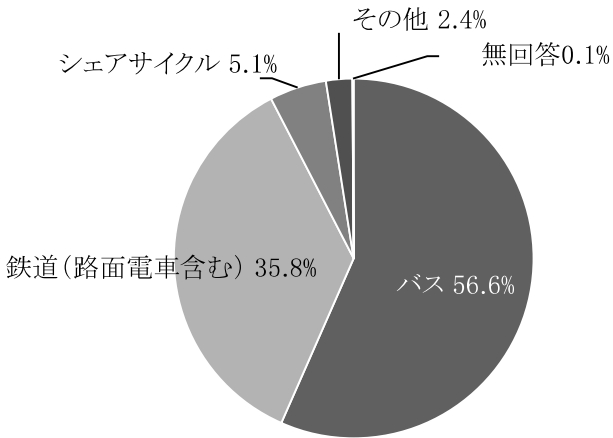
問4 あなたが公共交通をさらに使いたいようになるために、どのような機能を求めますか。
（2 つまで回答） 回答者 849 人

	回答数	割合
出発地から目的時まで速く移動できる（乗車時間が短い、乗り換えや待ち時間が少ない等）	607	40.7%
予定（時刻表）どおりに目的地に到着できる	182	12.2%
地球温暖化防止、騒音・振動の少なさ等環境に配慮されている	43	2.9%
安全性の高さ（事故のリスクが低い、感染症対策がされている）	73	4.9%
バリアフリーに配慮されている（高齢者、障がい者、妊婦、小さな子ども連れの方など、移動に配慮が必要な方にとって、使いやすいか）	123	8.3%
運賃が安い	407	27.3%
その他	45	3.0%
無回答	10	0.7%
計	1,490	100.0%



問5 あなたが最も整備（便数、路線の増強含む）を望む交通手段を一つ教えてください。

	人数	割合
バス	476	56.6%
鉄道（路面電車含む）	301	35.8%
シェアサイクル	43	5.1%
その他	20	2.4%
無回答	1	0.1%
計	841	100.0%



問6 交通手段についてご意見・ご要望・ご感想などございましたら、お聞かせください。

【主な意見】 全 288 件

- ・岐阜市街地在住なので、普段は徒歩、自転車、バスで簡単に移動ができますが、郊外に用事がある時には不便を感じるので、どうしても自家用車を利用してしまいます。
- ・今のバスは、道路状況もあって仕方ないとは思いますが、時間通りにほぼこなくて、その為に、どんどん混雑してしまって、弱者には座ることすら困難な時もあります。
- ・高齢者がある程度の年齢になったら進んで運転免許証の返納ができるような交通手段の環境整備が必要
- ・自動運転バスやコミュニティバスを利用させていただきました。安く利用しやすいメリットがある一方、目的地まで乗り継ぎが難しいのがデメリットかなと思いました。路面電車は観光資源にもなるのかなと思いました。
- ・シェアサイクルステーションの増加を希望します。岐阜駅から川原町あたりまでの区間のシェアサイクル需要は多いと考えますので、増強をお願いします。
- ・最寄り駅まで遠い事は仕方のない事です。駅の駐車料金が安くなれば、もっと利用すると思います。
- ・子連れで移動するには、車が便利で自家用車で移動していますが鉄道がもっと整備されれば、鉄道移動も視野に入れれるなと思いました。
- ・自家用車に利便性では勝てないので、観光鉄道などが盛り上がると、地域路線を守ることにもつなげられるのではと思います。
- ・路面電車廃止は、市の資産価値が減っただけで、失策だった。鉄道施設は資産価値をあげる。産業、雇用、人口の増加につながる。
- ・以前のような路面電車の復活を望みます。老若男女が利用活用する場所を円で結び、その他の地域からは、いくつかの主要駅を決め、バスで結ぶ。路面電車とバスの役割を分けて効率化を図る。「路面電車のある街」にしてほしい。
- ・都市部がコンパクトシティ化されるなど、公共交通機関が利用しやすい環境になる事を期待しています。
- ・運行本数の増加や、ライドシェアなど柔軟な運行体制の確立が必要。行きたい場所に、行きたい時間にいけることが一番重要かと思います。
- ・近年自動車が一番楽です。家から目的地に駐車場さえ有れば時間や天候など気軽に移動できるからです。でも年老いたら公共の乗り物に頼る事になると思うので住み良い岐阜になるといいと思います。
- ・自動車の利便性に満足しているので、無くす選択はないです。但し、自転車の活用は考えるべきだと思います。ヨーロッパにある様な自転車専用道があると利用者が多くなるのではと思います。
- ・バスは本数も多く便利だと思います。ただ時間がずれることもあるので、そこは不便を感じています。自家用車も多い中でのバスの運行ですが、公共交通機関として時間もなるべくずれずに乗れるとより便利になると感じます。
- ・子どもがバスを利用しているが、とにかく運賃も高く時間通りは来ないというイメージしかない。高齢者の免許返上の特典として乗りやすい条件が増えれば、車も減るのではないかと思う。岐阜は車がないと不便。
- ・公共交通機関を利用したいが、乗り場まで遠いので車になってしまう。
- ・車中心の街づくりから歩行者中心の街づくりへの転換。市町村が展開している地域コミュニティバスを行政区を越えて連携して運行できるよう支援。公共交通利用促進のアピール。